

公安委員会定例会議(第14回)の開催状況

第1 日 時 令和3年6月2日(水)

午後1時30分 ～ 午後4時10分

第2 出席者 曾我部委員長、渡部委員、増田委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、刑事部長、
交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長、生活安全企画課長

第3 議事の概要

1 委員長説示

昨日(6月1日)は、明治8年6月1日に日本初の気象台が設置されたことに由来する気象記念日です。現代では、気象予報は、莫大なデータやAIを駆使するなどして精度を限りなく高めています。それでもデータの扱い方次第では、長梅雨の予想が空梅雨となるなど、外れることもあるようです。データを重視することも当然重要ですが、感性を磨くことも必要だと考えます。

今から約30年前、私が現在の会社の社長に就任するとき、かつて勤務していた会社の元上司から、「感性を磨くことが大事だ」とアドバイスを受けました。この感性を磨くとは、ちょっとした異変や、言葉に表せない違和感を感じ取ることのできる能力を高めることであり、製造業の現場においても、ちょっとした異変に気付かず、生産ラインを止めるのが遅れ、結果として莫大な損益を出した大手企業も存在します。

この感性を磨くためには、余裕を持って様々なものを見るのが大事です。そうすることで、「ちょっとおかしい」に気付くことができるのではないのでしょうか。

警察業務においても、「ちょっとおかしい」を見逃さないよう、職員の感性を磨きあげていただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和3年第13回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 監査の実施

警務部から、監査の実施について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和3年版まもると安心の白書の発行

警務部長から、愛媛県警察の体制や令和2年中の愛媛県警察活動結果等が掲載された「令和3年版まもると安心の白書」の発行について報告があった。

委員から、「できるだけ多くの人の目に触れるよう努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「分かりやすく、よい冊子に仕上がっていると思う。様々なところで有効に活用していただきたい」との発言があった。

(2) 令和3年度における監察実施計画

首席監察官から、令和3年度における監察実施計画について報告があった。

委員から、「都度指示をしないと規律は緩むことが多い。引き続き、効果的な監察に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「例えば、留置施設に関しては、被収容者に若手職員が威圧されるようなケースも発生するおそれがある。業務に緊張感を持たせることと併せて、若手職員が上司に気軽に相談できる環境づくりも必要である」との発言があった。

(3) 監禁（児童虐待）事件被疑者の逮捕

刑事部長から、監禁（児童虐待）事件被疑者の逮捕について報告があった。

委員から、「他機関等との連携がプラスに働いている。引き続き、関係機関との連携に努めていただきたい」との発言があった。

(4) 少年法の一部改正

生活安全部から、少年法の一部改正について報告があった。

4 その他

(1) 交通部長から、「6月は横断歩道安全・安心強化月間であり、月間初日の昨日は、複数件の横断歩行者妨害を検挙した。加えて、横断歩道上での事故防止に向けた効果的な広報を行うことができた」との発言があった。

- (2) 委員から、「2月に無観客で収録された県警音楽隊によるふれ愛コンサート映像を見たが、大変見ごたえがあった。警察音楽隊による演奏を楽しみにしている県民は多く、こうした機会を有効活用し、どのように交通事故防止や特殊詐欺被害防止に結び付けていくか、工夫をしていただきたい」との発言があった。
- (3) 本部長から、「委員長説示のとおり、感性を磨くことは大事なことがある。私の場合も、部外の友人や知り合いから刺激を受ける機会が増えるとともに視野が広がり余裕も出てきた。ワークライフバランスの充実等の取組を通じて、職員が視野を広げ、感性を磨くことができるよう配慮していきたい」との発言があった。

以 上